平成３０年度　長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名　称	サイエンス・イマージョン プログラム
期　日	平成 31 年 1 月 21 日（月）～22 日（火）1 クラス 3 時間
会　場	1 学年各教室
対　象	１年生全員（午前・午後 2 クラスずつ 2 日間で合計 8 クラス）
目　的	・外国人の留学生を講師に招き，自身の研究分野に関する講義を聞き，得た情報について議論する。 ・科学的なトピックについて，ディスカッション，プレゼンテーションを行う。（トピックは，講師の先生が複数提示した中から生徒が選択。） ・以上の全活動を英語で行うことで，グローバル社会におけるコミュニケーションツールとしての英語の必要性を知るとともに，英語によるコミュニケーション能力を高める機会とする。
内　容	講師：Ms. Kenza Snoussi （ケンザ スノウッシ）さん 筑波大学大学院 微生物学専攻　講義テーマ「細胞内へのウイルス顕微注入法」 Ms. Bouchra Lachkar（ブシュウララ ラシュカル）さん 筑波大学大学院 医科学専攻　講義テーマ「DNA 構造の基礎知識と日常生活への応用」 ・1 時間目：講師の先生による研究の紹介，質疑応答。 ・2 時間目：プレゼンの方法についての説明。科学的テーマについてのグループ討論，プレゼン原稿準備，講師の先生の指導。 ・3 時間目：プレゼン準備→プレゼン→講師の先生によるコメント。

Bouchra 先生の授業風景

Kenza 先生 の授業風景

アンケート評価	事前アンケート Q. プログラムを受けることに対してどう感じますか。 「とても楽しみだ」 15% 「少し楽しみだ」 62% 「少し面倒だ」 20% 「とてもいやだ」 2% 実施後アンケート Q.プログラム受講後どう感じましたか。 「とても良かった」 66% 「どちらかといえば良かった」 29% 「どちらかといえば良くなかった」 ３ % 「とても良くなかった」 ２ %
感想など	・母国語でなくても、あそこまで英語を上手に話せるのは凄いと思った。私も勉強をもっと頑張れば英語を母国語のように話せるようになるかもしれないと思い、希望を持つことができて嬉しかった。 ・与えられた問題について英語で話すことは難しかったが、失敗を恐れず、協力して解決まで導くことが大切だということがわかった。 ・英語が面白いと改めて感じた。発表するときのポイントを学べた。とても楽しかった。また参加したいと思った。 ・グローバル化が進む今の社会では、たとえ海外で働かなくても、大学では留学生や外国人講師、職場では外国人従業員と、国内でも様々な国の人と関わる機会が増えている。そこで大切なのはいかにコミュニケーションをうまくとるかである。もちろん英語力も必要であるが、それ以上に相手と意思を通じ合う努力が大事である。今回でそんなコミュニケーションをたくさん学ぶことができた。 ・全ての会話が英語だったので、頭がパンクしそうだったけど、ざっくりとした内容は頭に入ってきたので良かった。また、質問をその場で考えて発表するのが難しかったけど、たくさん質問することの大切さを学べたので良かった。また、短時間で発表の準備をしたので、力がついてきたなと感じることができました。 ・今回は自分の英語力が足りず、先生にしっかりとした受け答えが

	できなかった。それが悔しかったので、自分の英語力を高められるように、もっと積極的に日々の授業に臨んでいきたい。 ・言語は違うけれども、問題は世界共通なことがあって興味深く感じた。先生もおっしゃっていたが、研究によって多くの人を救えるようなものを作ることも素敵だと思った。 ・英語を話すには、英語で会話するという経験が一番大事なんだと感じました。